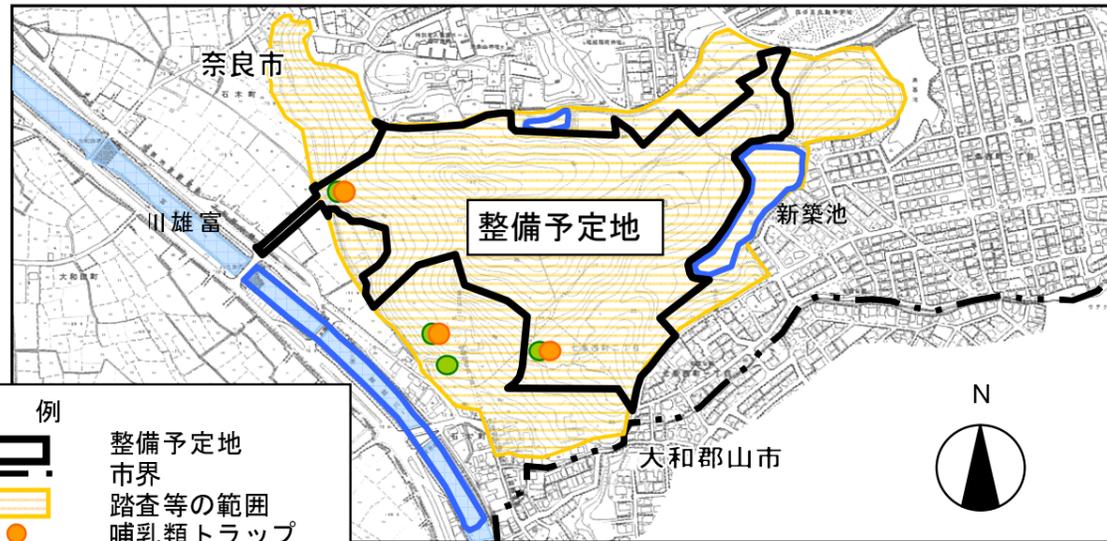


# 新県立奈良病院整備予定地における環境影響調査の概要

## (1) 動物・植物への影響

### 【調査の方法】

調査地点：整備予定地及びその周辺（図参照）  
 調査方法：（動物）現地踏査、無人撮影、トラップ調査など  
 （植物）航空写真の判読、現地踏査  
 （水生生物）漁具を用いて採集



凡 例  

 整備予定地  
 市界  
 踏査等の範囲  
 哺乳類トラップ  
 昆虫類トラップ  
 水生生物調査範囲

図 動物・植物の調査範囲

### 【調査の結果】

現地調査の結果、哺乳類が5科5種、鳥類が13目30科67種、両生類が2科4種、爬虫類が5科6種、昆虫類が22目231科778種、魚類が7科12種、植物が103科360種確認された。  
 このうち、貴重種を以下の表に示す。

区 分（貴重種確認種数）	貴 重 種
哺乳類	—
鳥類（11科21種）	チュウサギ、オシドリ、マガモ、コチドリ、クサシギ、オオヨシキリ、セッカ、カワセミ、ルリビタキ、トラツグミ、アオジ、キビタキ オオタカ、ハチクマ、ミサゴ、ハイタカ、ノスリ、サンバ、ハイイロチュウヒ、ハヤブサ、チョウゲンボウ
両生類	—
爬虫類（1科1種）	ニホンマムシ
昆虫類（3科3種）	ナニワトンボ、ヤマトタマムシ、ユミアシゴミムシダマシ
魚類（3科3種）	ギギ、メダカ、タウナギ
植物（6科9種）	イヌマキ、コブシ、センリョウ、イチヤクソウ、カラタチバナ、キンラン、シュンラン、コ克蘭、オオバノトンボソウ

### 【貴重種への影響予測】

区 分	予 測 結 果
鳥類	<ul style="list-style-type: none"> <li>オオタカについては、行動圏調査の結果、整備予定地は高利用域に含まれていないことが確認され、また、西には山塊や丘陵地が連なることから、生息に及ぼす影響は小さいものと予測。</li> <li>その他の貴重種については、主な生息地や利用域は整備予定地外（水辺や水田、西側の連なる山塊や丘陵地）であり、生息に及ぼす影響は小さいものと予測。</li> </ul>
爬虫類	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニホンマムシについては、予定地外にも生息環境は残されるため、影響は小さいものと予測。</li> </ul>
昆虫類	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤマトタマムシ、ユミアシゴミムシダマシについては、伐採した発生木等（産卵や越冬に利用される）を残置するとともに、法面の緑化・樹林化等速やかな環境復元を並行して実施することにより、可能な限り影響が低減されるものと予測。</li> <li>ナニワトンボについては、整備後にエコトーン<sup>(注)</sup>を復元することにより可能な限り影響が低減されるものと予測。</li> </ul>
魚類	<ul style="list-style-type: none"> <li>ギギ、メダカ、タウナギについては、生息流域の大部分を残置とする計画であることから直接的な変更の影響は受けないものと予測。</li> </ul>
植物	<ul style="list-style-type: none"> <li>イヌマキ、コブシ、センリョウについては、栽培種の逸出による生育の可能性が高く、種の存続への影響はないと予測。</li> <li>イチヤクソウについては、予定地に生育する個体は確認されておらず、本事業による本種への影響はないと予測。</li> <li>カラタチバナ、キンラン、シュンラン、コ克蘭、オオバノトンボソウの5種については、移植が必要。</li> </ul>

(注)エコトーン：陸地と水面の境界のように、どちらとも違った特徴を持った移行帯

### 【影響の評価】

整備予定地は、事業の実施に伴う造成工事により改変されるが、自生種の植栽など事業後の復元措置によって周辺の樹林との一体化を図り、確認された貴重種については、移植等の保全措置を行うことにより、既存の生息環境の回復及び新たな生息環境の育成が図られることから、可能な限り影響が低減されるものと評価する。

# 新県立奈良病院整備予定地における環境影響調査の概要

## (2) ドクターヘリ騒音による影響

### 【調査の方法】

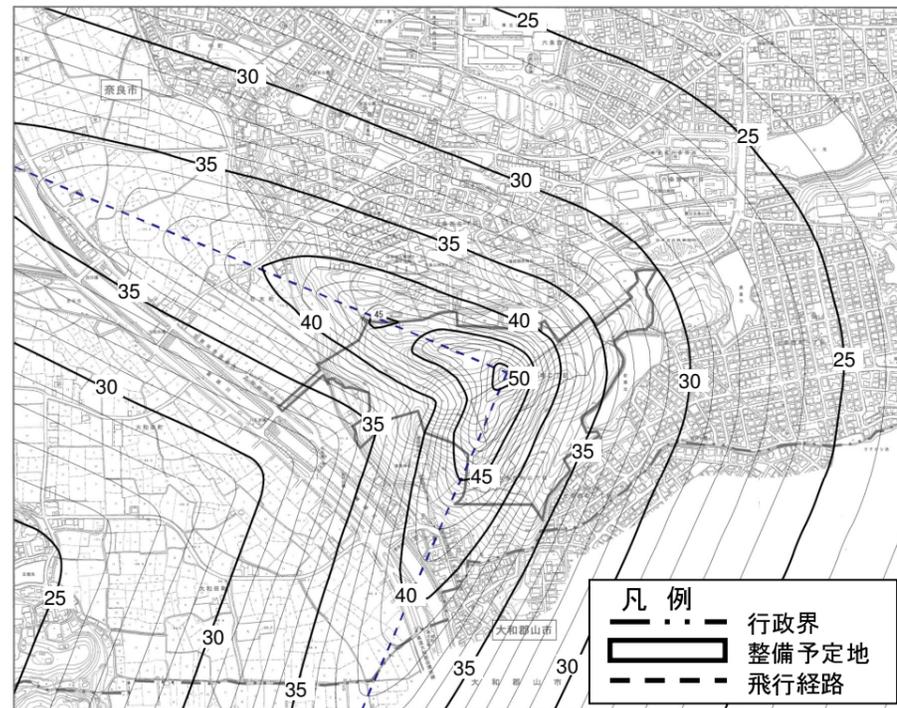
ドクターヘリのテストフライトによる騒音調査結果から騒音影響を予測するためのモデルを構築し、そのモデルを用いて最適なドクターヘリの飛行経路の選定と騒音レベルの予測を行った。

### 【予測の結果】

周辺地域への影響が最も少ないと考えられる飛行経路として南南西～西北西（進入区域90°以上）を選定し、その経路における日運航回数を1回とした場合の騒音予測を行った。

その結果、環境保全目標である航空機騒音に係る環境基準値57dB(Lden)<sup>(注)</sup>を超過する地域はないと予測される。

- 注) ・「航空機騒音に係る環境基準」は、「航空機騒音に係る環境基準について(平成19年12月17日告示)」に基づき、平成25年4月施行となる時間帯補正等価騒音レベル(Lden)。  
 ・「時間帯補正等価騒音レベル(Lden)」とは、騒音を評価する場所で1日(0～24時)の間に観測される騒音のうち、対象とする航空機の騒音レベルを環境基準に準じて時間帯別に補正した後、エネルギー加算し、観測時間で平均してレベル表示した値のことをいう。



飛行経路を南南西⇄西北西とした場合の騒音レベル(Lden)

### 【影響の評価】

ドクターヘリの飛行経路を南南西～西北西とし、その経路における日運航回数を1回（年間365回）とした場合でも、環境基準を満足する。

また、可能な範囲で離着陸時アイドリング時間の短縮や、速やかな離発着を行うこと等により、周辺地域への影響を可能な限り低減できるものと評価する。

## (3) 景観への影響

### 【調査の方法】

遠景の眺望地点は、奈良県「まほろば眺望スポット百選」、奈良市「奈良を感じるすばらしい眺めの候補地」より選定し、視認状況を調査した。近景の眺望地点は、整備予定地周辺から選定した。

### 【調査・予測の結果】

遠景の眺望については、選定した視点場のうち、下記地点から整備予定地を見通すことが可能であったが、いずれも視認は困難であった。  
 近景の眺望については、残置する森林等により眺望景観の変化は小さいと予測される。

#### <遠景>



1.若草山から東大寺

2.県庁屋上から周辺眺望

3.県道高畑山線バス停から市街地

#### <近景>



4.整備予定地北西側

5.整備予定地西側

6.整備予定地東側

## (4) 文化財への影響

### 【調査の方法】

整備予定地における文化財の状況について、文献調査及びヒアリングを実施した。

### 【調査の結果】

#### 【文献調査】

整備予定地では、以前に県住宅供給公社による宅地造成工事が計画されており、そのための埋蔵文化財の調査が平成7～8年に実施されている。

調査は予定地全体を対象に試掘調査が行われ、その後、遺構・遺物等が確認された場所を基本に、下図に示す2箇所（北調査区、南調査区）で本調査が行われた。

#### 【ヒアリング調査】

本事業の文化財への影響について、奈良県文化財保存課へのヒアリングの結果は以下の通り。

- ・整備予定地は、埋蔵文化財の調査が既に実施されており、埋蔵文化財包蔵地（一ノ谷遺跡）として県の遺跡地図に登録され、記録保存等の必要な保存措置が講じられている。

